

産業建設常任委員会代表質問



質問者
柿崎直治

質問

町長の所信表明に対し産業建設常任委員会を代表して質問いたします。

昨今は世界的な環境問題の中でもとりわけ地球温暖化問題が大きく取り上げられており、全国各地で地域の特性を活かしたバイオマスの総合的利活用システムの構築による利活用プランとして「バイオマスタウン構想」の策定が進められています。そこで当町のバイオマスタウン構想の中のごみの堆肥化、ペレットストーブ導入支援、廃食用油回収システムの確立などについて現在どのように取り組んでいるのか伺います。

代

表

質

問

次に現在三魚沼地域、湯沢町、十日町市、津南町、及び群馬県みなかみ町、長野県栄村の7市町村で積極的に取り組んでいる雪国観光圏についてであります。今後の展開と湯沢町の関わりについて伺います。

次にインバウンドの受け入れ態勢についてですが、インバウンド、つまり外国人観光客の誘客促進について観光立町湯沢町として具体的にどのような施策、受け入れ態勢を考えているのか伺います。

次に、町長が就任当初から提唱している地産地消について、所信表明のなかで生産者、宿泊業者、商店に対する支援を述べています

が、どのような支援を考えているのか伺います。

最後に、長年継続事業として整備されてきた土樽自然公園の今後について伺います。

町長答弁

バイオマスタウン構想の中の生ごみの堆肥化については下水道が普及しているので、福祉の面からもデスポーザーを導入し、下水道道を利用し、浄化槽の中で堆肥化をしたらどうかと考えております。

ペレットストーブ導入支援については現在地球環境における二酸化炭素の削減は重要な課題であります。そこで22年度予算にて町民の皆さんのペレットストーブ購入に際して本体価格の四分の一、5万円を上限として補助したいと考えております。

廃食用油回収システムについては、現在廃食用油は可燃ごみとして処理されており、事業者が事業所において廃食用油を回収し、事業者が事業所を回収して一定の単価で購入していただきます。

このまま推進します。家庭系の廃食用油については南魚沼市と同様収集場所は職員の見届く公共施設とし、業者に収集を委託する形を考えています。

収集費用に関しては油の量により減額をしてもらうということも考えられます。

雪国観光圏の展開と町の関わりについてはこの協議会の会長は私で事務局を湯沢町が担当しております。

現在国や関連業界の期待も大きく国費の補助事業を実施していることや社会資本整備に北陸地方整備局が加わってきたこと、JR東日本が事業を支援してくれていることなどを考えた場合、当分の間は町が相当な部分を関わる必要があると考え、今後各市町村長とも率直に話し合いを持つと思っております。

インバウンドの受け入れ態勢につきましては、国のインバウンド施策に協力して、中国、韓国、台湾、香港など観光エージェンツ関係者を招聘、取材協力をお願いしているところであります。新潟の空港及びホテル

関係者と協力し湯沢までの直通バスを走らせております。その他、JRと協力して成田、羽田からの商品作りも進めているところであります。

地産地消における生産者、宿泊業者、商店等への支援については、観光と農業の連携は私の基本政策の一つであります。本年は関係者とともに地産地消推進会議を立ち上げ、観光産業需要拡大連携を推進していきたいと考えております。

最後に土樽自然公園の今後についてであります。この公園の整備については平成18年から22年まで国からの町づくり交付金を活用して整備してまいりましたが、22年度この事業が完了となることから、未整備の区域につきましてはしばらく整備を休まざるを得ない状況となります。現在までの整備完了区域と来年度整備完了区域を合わせると全体の55%になり、今後施設の管理については検討してまいります。